

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第19号

令和4年2月16日発行

発行者：校長 小貴 崇高



○読み聞かせボランティアの皆さんに感謝！

稲田学園の子どもたちは本をたくさん読みます。その背景には、ボランティアの皆さんによる読み聞かせがあります。1年生から9年生まで発達段階の違う子どもたちに、どんな絵本を、どんな風に聴かせようかと様々に準備していただきながら、1年間で各学年ともに2～3回の読み聞かせが実現しているのです。子どもたちは本当に真剣に話を聴き、その話の筋や絵を楽しんでいます。



2月9日（水）に、今年度最後の読み聞かせを行っていただきました。読み聞かせ終了後、これまで様々な本を読んでいただいたボランティアの皆さんに、図書委員会の児童生徒から、手作りのメッセージカードを贈呈しました。ボランティアの皆さん、1年間ありがとうございました。

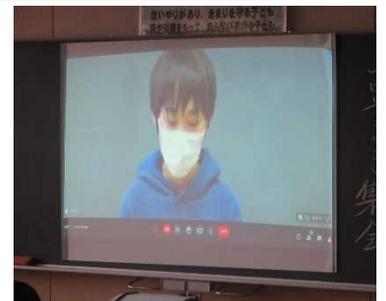
○「節分」豆まき集会～あなたの退治したい鬼は？～

2月3日（木）の昼休みに、前期課程（1～6年）の児童を対象に豆まき集会をリモートで行いました。

集会では、保健委員会の児童から節分に関するクイズが出題されたり、各学年の代表児童が「追い出したい鬼」の発表をしたりしました。コロナ対策で、児童全員で集まって、にぎやかに豆をまくことはできませんでしたが、楽しい豆まき集会になりました。



ところで、保護者や地域の皆さんにとって「追い出したい鬼」は何ですか。大人の皆さんだったら「子どもをすぐに叱ってしまう鬼」や「健康によくないとわかっているからお酒を毎日飲んでしまう鬼」などを退治するなんていうのはどうでしょうか（笑）。



○県立高校前期入試の倍率確定～試験は3月3日・4日～

2月14日（月）に県立高前期選抜の志願先変更期間が終わり、最終的な倍率が確定しました。3月3日（木）・4日（金）に行われる試験に向け、9年生はいよいよ最終段階を迎えています。コロナ禍での受験は、勉強だけではない緊張感があると思いますが、健康管理と計画的な準備を積み重ね、自信をもって受験できるよう祈っています。※写真は授業に集中する9年生



○北京オリンピックは家族で話題になってますか？

開幕してすでに全日程の半分が終わってしまった北京の冬季オリンピックですが、日本人選手の活躍がテレビで生中継されたりニュースで紹介されたりして、ご家庭でも盛り上がっているのではないのでしょうか。※写真はテレビでのスキージャンプの放送



子どもを含めた家族で一緒にテレビ観戦して、そのスポーツの醍醐味や勝敗をわける技術、選手の特徴や人柄などについて話をする事は、家族にとって本当にいいことだと思います。「コロナ禍で一緒に過ごすことの多い家族のコミュニケーションの場」として、また「人としてどうあるべきか」などのように、様々なことを考えるきっかけになるのではないかと私は期待しています。

例えば、次にあげるような話題について家族で話したことはありますか？

（低学年の子であったら）

- 自分でもできそうな競技、やってみたい競技があること
- ルールが難しいけど、ずっと見ているとなんとなくわかってきたこと
- カーリングチームの「もぐもぐタイム」のこと

（高学年の子であったら）

- 3連覇できずメダルも取れなかったフィギュアスケートの選手のこと
- 規則違反で失格となったスキージャンプの選手のこと
- 3回目の出場で金メダルを獲得したハーフパイプの選手のこと
- 15歳の選手に起きたドーピング（薬物使用）問題のこと・・・等

母国の選手（日本人なら日本人選手）を応援することには何ら問題はありません。ただ、負けたから最悪などという話ではなく、日本人選手に限ることもなく、1回戦で負けてしまった選手やチーム、惜しくもメダルを逃した選手でも、その選手本人や選手を支えた家族、仲間などにも思いを広げたり、優勝した選手はなぜ勝てたのかとか、自分だったらどうするかなどと考えたりしてみてもはどうでしょうか。後半のオリンピックも、ぜひ家族で楽しんでください。

（注）受験生である9年生に関しては、テレビを見すぎないように時間を決めるなどの工夫を必ずしましょう。どうしても見たいときは、生中継ではなく、ニュースのスポーツコーナーで我慢するというのもはどうでしょう。

★言葉と生きる(19) 「普段一人ぼっちの人は、

人と話すと自分のことばかり話す」

6, 7年前に出会った言葉です。当時私は単身赴任中で、この言葉がとても理解できたような気がします。というのも、週末に勤務地から自宅に戻ると、私は妻に一方的に自分の話を機関銃のように話していたのです。職場では「小学校の校長先生」として、子どもたちや先生方からも、そして地域の方々からも声をかけてもらい、自分なりに人の話に耳を傾けているつもりでしたが、アパートに一人にいるときは孤独だったのですね・・・。

ところで、稲田学園にも自分のことばかりを教師や友だちに一方的に話す子どもがいないわけではありません。学校でも、家庭でも、豊かなコミュニケーション体験（一方的でなく双方向的で、相手の思いを聴こうとする、理解しようとする思いやりのある会話など）が、人格形成上大切であると私は強く思います。